



Akajima Marine Science Laboratory 阿嘉島臨海研究所

〒901-3311 沖縄県島尻郡座間味村字阿嘉179

ホームページもご覧下さい。 <http://www.amsl.or.jp>

TEL:098-987-2304 FAX:098-987-2875 E-mail:amsl@oki-zamami.jp



●黒いサンゴ

ーテルピオスー

さすがに涼しくなって来ました。海水温も 25℃台の日が多くなってきています。夏場には多くのサンゴが産卵しましたが、今年もうそれも終わり、また来年です。皆さんの中には、サンゴが産卵したあと、受精した卵が何になるか勉強した人も多いでしょう。それは、プラヌラ幼生というサンゴの赤ちゃんです。プラヌラは、ちょっと細長い卵型をしていて表面が細かい毛おおで覆われていて、その毛を動かして泳ぐことができます。実は、海の中にはこのプラヌラとよく似た幼生を出す生き物がほかにもいます。もちろん、クラゲやイソギンチャクなど、サンゴと同じ刺胞動物しほうはそうなのですが、それらとは別にカイメンの仲間も同じような形の幼生を生み出すのです。今回は、そのさんご礁に住むカイメンの仲間の一つ、テルピオスについてお話ししましょう。

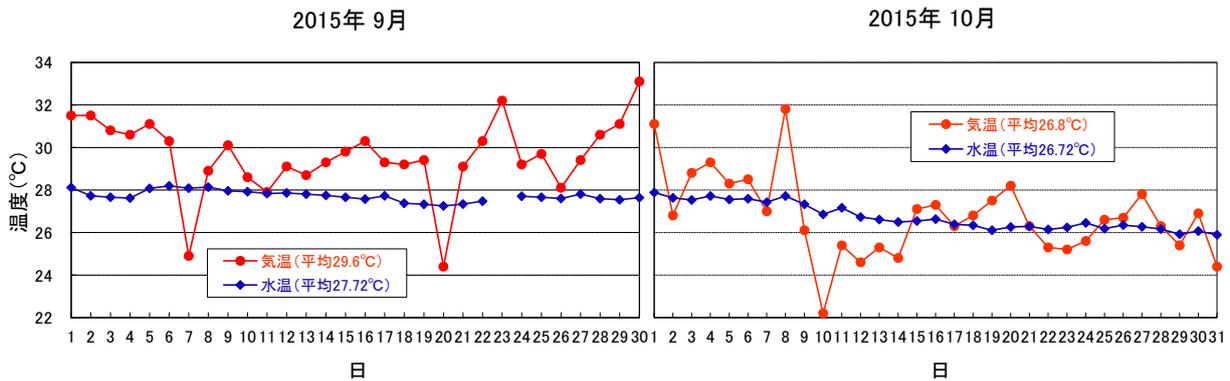
多くの方はテルピオスのことを知らな

いと思いますが、知っている人にとっては、‘さんご礁に住む’とは言っても、このカイメンについて良い印象をもっている人はあまりいないかもしれません。それは、テルピオスが、サンゴを覆い殺す生き物だと考えられているからです。

実際にテルピオスは、時に大量発生してあたりのサンゴを広く覆ってしまいます。テルピオスは、色が黒～灰色をしており、厚さが 1mm ほどしかないシート状のカイメンのため、覆ってもサンゴの形がすっかり残ったままなので、まるでサンゴが黒く変色したように見えます。それで、鹿児島県の徳之島で、日本で最初に大量発生が見られたときにはサンゴの病気だと勘違いかんちがされて「黒死病」と呼ばれました。実際にはカイメンだったわけですが、サンゴを覆ってしまうのですから、こわい敵であることには変わりありません。

今年の夏、例によってサンゴの産卵観察をしているときに阿嘉島の海で発見したのが、冒頭ぼうとうの写真のテルピオスです。枝状のミドリイシがすっかり覆われていました。いやな感じだと思いつつも、そのあたりでテルピオスに覆われているのはこの 1 群体だけだったので、あまり気にしていなかったのですが、先日、渡嘉敷の海で泳いでいたら、水深 3~4m 付近に 10 群体以上のサンゴがテルピオスに覆われているところがありました。被害

定点観測



を受けていたのは、キクメイシ類やサザナミサンゴ類などで、一番多いのは被覆状のサンゴで、およそ 1m 四方が覆われているところもありました。これからさらに被害が広がるのかどうかはわかりませんが、黒いサンゴがたくさんある光景はかなり不気味な感じでした。なにかしら対策を講じるべきでしょうか。また、なにか良い対策があるのでしょうか。

これまでに日本で観察されたテルピオスの大量発生は一時的なものが多く、ほとんどが 1 年以内に消滅しています。しかし、グアムでは十数年発生し続けた記録も残っており、安心はできません。少なくとも多くのサンゴが死んでしまわずし、テルピオスが消えるまでは、新たなサンゴが増えることは期待できないのです。では、今あるテルピオスを取り除いてしまえばよいのでしょうか。しかし、こうした駆除作業は危険だという意見もあります。というのも、テルピオスは小さな破片からも再生するし、破片によって別の場所に広がることもできるので、駆除によってその破片がまき散らされることになれば、かえって被害の範囲を広げることになりかねません。とはいえ、もしも被害が深刻になりそうなら、一人かでも駆除を試みなければならないかもしれません。

いずれにしても、これからテルピオスの発生がどうなるのか、しっかりと監視する必要があります。冬になり、みなさ

んが海に行く機会も減るでしょうが、行った時には注意深く観察してもらえるとありがたいです。

このテルピオスにしても、シロレイシダマシにしてもオニヒトデにしても、大量発生してサンゴに被害を与える動物についての専門家が、日本にはなかなかいません。敵を知ることが対策の第一歩だと思うので、そうした研究をどうにか進めることができないかと考えています。

● 阿嘉島の海より

10 月の終わりから、慶良間のいろいろな場所でサンゴの生息状況を観察する機会がありました。20 年ほど前から、白化、そしてオニヒトデによってダメージを受け、2006 年頃の慶良間のサンゴの量は、所によってはそれ以前の十分の一にまですっかり減ってしまいました。その後、何年たってもなかなかサンゴが増えないなど思っていたのですが、今回の観察によって、たくさんの地点でサンゴが回復してきているのを確認しました。場所によっては、直径 40~50cm ほどのテーブル状ミドリイシがびっしりと生息しているところもありました。また、多くの地点で 10~20cm くらいの群体がたくさん生えてきていて、近い将来に以前のようなサンゴだらけの海がよみがえるのではないかと期待を膨らませています。これらのサンゴが元気に育つように、これからも大切に見守っていきたいと思います。